

エア 空気バレー競技規則（6人制）

第1章 競技場設備及び用具

（コート）

1. コートは、バドミントンコート（13.40m×6.10m）を使用し、コート面から7mの高さまでには原則として障害物があってはならない。
2. コートは、幅5cmの線によって囲まれ、区画線はコートの大きさに含まれる。
3. 競技委員会がコートの大きさを定める。

（ネット）

1. ネットは、バドミントン競技用を使用し、コートを2等分するように強く張る。白帯、アンテナは使用しない。
2. ネットの高さは、補助ポールを使用し1m80cm～2m00cmとする。
3. 競技委員会がネットの高さを定める。

（ボール）

1. ボールは、競技委員会が定めたボールを使用する。

第2章 競技者

（チーム）

1. 競技者の数はいかなる場合でも6名とし、チームの編成員は10名以内で構成する。競技部門において、規定された資格を有する人員をいれたチーム構成であること。
2. 10名のうち主将1名を定めること。
3. チームの編成は、競技委員会及び大会規定の中で定める。

（競技者の権利）

1. 競技停止中競技者はチームの主将を通じてのみ、主審に対して質問することが出来る。但し、主将が交代した場合は代理をおくことが出来る。
2. 代表者は休息または競技者の交代のタイムアウトを要求できる。
3. 代表者はタイムアウトの時、競技者と話をすることが出来る。但し、コート内に入ることは出来ない。
4. 競技の進行中に審判の判定に対して異議申し立ては許されない。

（競技者）

競技者は、競技にふさわしい服装をすること。

（競技者の交代）

1. セット内のメンバーチェンジは、何人でも出来る。
2. 代表者は競技者を兼ねる事が出来る。但し、コート内ではその権利を失う。

第3章 競技規則

(競技方法)

1. サービスのときはハーフラインをはさんで前衛3人、後衛3人の位置を守らなければならない。
2. サービスの直後、各競技者は自分のコートを自由に行動することが出来る。

(コートの交替)

コートは、1セットごとに交替し、最終セットにおいてはいずれかのチームが8点先取したとき、交替する。コートの交替が正しく行われなかったときは審判が気づいた時点で交替し、それまでの得点は有効とする。

(コート及びサービス権の選択)

主将は、コートを選ぶか最初のサービス権を選ぶかについてジャンケンを行う。ジャンケンに勝った方の主将はそのいずれかを選択する。

(競技セット数及び勝敗の決定)

1. 一試合における競技セット数は、3セットマッチ2セット先取、1セット15点先取したチームをそのセットの勝者とする。
2. 両チームが各々14点を得た後は2点勝ち越したチームがそのセットの勝者となる。
3. 競技委員会の決定により、1セットの得点を変更することが出来る。

(競技者の位置とローテーション)

1. 競技者の位置は、最初のサービスの時、決められた位置を守らなければならない。
2. 競技者のローテーション順は、ゲームが終了するまで守らなければならない。
3. サービス権を得たチームは、時計の針と同じ方向に1つずつローテーションする。

(ローテーションの誤り)

位置の誤りを発見した場合、その誤りを正す。その場合、サイドアウトになり相手に1点を与える。また、誤りがあった間にそのチームが得点していれば、それは有効とする。

(競技の開始とサービス)

1. 試合は、主審の吹笛により、サービングチームの第1サーバーのサービスで開始される。
2. サーバーは主審の吹笛後サービスを行う。
3. サーバーはいつも後衛右側にきた競技者とする。

(サービス権)

1. 第2、第3セットのサービス権は前のセットに第1サービスを行ったチームの反対側が得る。次セットの各チームのサーバーは、前セットの最終サーバーの次の競技者とする。
2. サービスオーダーは試合終了まで変更できない。
3. サービスは、両サイドラインの仮想延長線上とエンドラインで仕切られている範囲内で打つ。
4. サーバーは主審のサービス開始の吹笛後、すみやかにサービスを行わなければならない。
5. サービスは、一度味方のチームに触れた後プレーをしなければならない。(直接ネットに触れた場合はアウト)
6. サービス開始の吹笛後、ボールを支持手から離した場合はサービスを行ったものとみなす。

(プレー)

1. 各チームは、ネットを境に分かれ、ボールを落とさないようにネットを越して打ち合い、ボールを3回以内に相手方に返す。
2. 攻撃レシーブ共に平手、こぶし等手の形はいずれでもよい。
3. ボールをプレーするのは、体のどの部分を使ってもよい。
4. 同一人が続けて2度ボールに触れてはならない(ドリブル)。

(2人の競技者によるプレー)

1. 同じチームの2人の競技者が同時にボールに触れた場合は、1回のプレーとみなす。この場合、続いていずれかの競技者がボールに触れても反則にはならない。
2. 相対するチームの2人の競技者が、ネット上で同時にボールを打った場合は、ボールの落ちた反対側の競技者が最後に触れたものとみなす。従って、どちらに落下してもボールが入ったコートของทีมは3回プレーすることが出来る。

(タイムアウト)

1. タイムアウトは、ボールがデッドの時、監督、主将のいずれかを通じて要求できる。各チーム1セット中に2回とれる。
2. チームは試合中のセット間に2分以内のタイムアウトをとることが出来る。
3. 競技者は、タイムアウト中にコートに入ることは出来ない。

(レフリータイム)

主審は競技者の負傷、或いはその他の理由(靴紐がとける、他からボールが進入する等)で特にその必要を認めた場合は、レフリータイムを宣告することが出来る。

(ダブルファウル)

両チームの競技者が同時に反則した場合は、ダブルファウルとなり、ノーカウントとして競技は再び同じサーバーにより再開される。

(タッチネット)

インプレー中競技者が、ネット(支柱を除く)に触れるとタッチネットの反則となる。しかし、ボールが打ち込まれたために、相手チームの競技者にネットが触れても反則とはならない。

(オーバーネット)

競技中、ブロッカーの手がネットを越えて相手方のコートにあるボールに触れた時、オーバーネットの反則となる。但し、アタックした後に手がネットを越えても反則とはならない。

(アウト・オブ・ポジション)

1. サービスが行われると同時に位置を誤った場合、又ラインを踏んでいた場合は反則となる。
2. 後衛がハーフラインより前に出て攻撃、またはブロックに参加した場合は反則となる。但し、ジャンプ後、ハーフラインを越えても反則とならない。

(ドリブル)

1. 同一競技者が続けて2度ボールに触れると反則になる。
2. ボールが体をすべった場合も反則となる。

(ホールディング)

1. 競技者は、ボールを静止させないで、明瞭に打たなければならない。

2. ボールが手または体に静止した状態になった時は反則となる。

(アウト・オブ・バウンズ)

ボールが、コート外の地表、物体に触れるかもしくはネットの下方を通過した場合は反則となる。

(反則)

次の場合、チームは相手側に1点を与え、サイドアウトとなる。

1. サービスを失敗したとき。
2. インプレー中ボールが味方コートの地表に触れたとき。
3. オーバータイムス
4. ホールディング
5. ドリブル
6. タッチネット
7. オーバーネット
8. インターフェア
9. アウト・オブ・ポジション (ローテーションの誤り)
10. バックプレーヤーが、アタック・エリア及びハーフラインの想定延長線内でジャンプしてボールを相手方に返した場合。(フライングレシーブ・アンダーハンドは含まない)
11. ラインクロスやフットフォールト (サーバーの位置の誤り)
12. デレイング・ザ・ゲーム (故意にゲームを遅らせたとき)
13. アウト・オブ・バウンズ

(警告)

次の行為は警告される。

1. 競技者の行動が故意に競技を遅延させようとするものと主審が判断したとき。
2. インターフェア
3. サイドコーチを受けたとき。
4. 主審の許可なくコート内の競技者がコート外に出たとき。
5. 不当なタイム・アウトを要求したとき。
6. 不当な競技者の交替を要求したとき。

(制裁)

競技者またはチームが次の行為、或いはいちじるしく競技精神に違反する行為をした場合は処罰される。

1. 役員の決定について執るように話しかけること。
2. 役員の名誉を傷つけるような言動を発すること。または、判定に影響を及ぼすような行為をすること。
3. 相手方競技者の名誉を傷つけるような言葉を発すること。
4. 警告を2度以上受けたとき。主審の注意、警告にもかかわらず執るように話し掛けるような場合は相手チームにサービス権及びポイントを与え、そのセットまたはゲームから退場させることができる。場合によってはその試合を没収することができる。

5. 競技者が試合開始時刻までにコートに集合できない場合は、その試合には出場出来ない。その競技者はその試合のみ欠場となる。次の試合からは出場できる。

(試合没収)

主審がチームにプレーを行うよう命じたにもかかわらず、尚これを拒んだ場合そのゲームを没収する。また次ぎの場合も没収試合の対象となる。

1. 正当でない競技者の出場を発見した場合。
2. 1チームの競技者が6名以下になった場合。
3. 試合開始時刻を15分経過しても、コートに集合しない場合。

(試合の中断、延期及び中止)

1. 主審は、天候その他の事情のため、競技続行が不可能と認めた場合は一時中断することができる。中断されたゲームは、そのときの状態のまま再開する。
2. 主審は、前項の事情により当日の競技継続が不可能となった場合はゲームを延期するか中止にする。但し、延期した場合は改めて最初からゲームをやり直す。

第4章 役員の権限と責務

(役員の構成)

競技は次の役員によって運営される。主審1名、記録員1～2名、線審2～4名で行う。